



健やか豆知識

第47回

Q. 子どものステロイド点鼻薬の 使い方で間違っているのは どれ?

Ⅰ 決められた回数を守る

Ⅱ 副作用が心配なので
少な目に使う

Ⅲ 鼻をかんでから使う



子どもの花粉症、お薬を正しく使うことが大切です

子どもの花粉症をはじめとするアレルギー性鼻炎の治療薬として、耳鼻科や小児科では飲み薬の他に点鼻薬が処方されることがあり、主にステロイド点鼻薬が使われます。ステロイド点鼻薬には、即効性はありませんが、鼻の奥の炎症や血管の拡張をおさえてくれる特徴があります。また、ステロイド薬は怖いというイメージを持たれるかもしれませんが、点鼻薬は局所に効くため体の中に吸収されにくく、しっかり用法と用量を守れば安心して使えるお薬です。「鼻アレルギー診療ガイドライン」において軽症、初期の段階からステロイド点鼻薬を用いることが推奨されており、正しく使えば早く2、3日で症状の緩和が期待できます。

点鼻薬の多くはスプレータイプで、液体か粉末の薬が入っています。小さい子どもの場合、液体が鼻に入る刺激を嫌がることもあるので、その場合は粉末の薬にかえてもらえないか医師や薬剤師に相談してみましょう。鼻水などで鼻がつまっていると薬が奥まで行き届かないので、必ず鼻をかんでから使用します。お風呂上がりなど少し鼻の通りがよくなった時に使うのもおすすめです。スプレーをする時は、少しうつむき加減にして、スプレーの先端をやや外側に向けると、鼻の穴全体に薬が行き渡りやすくなります。子どもの鼻の穴は小さいので、奥までグッと押し込まずに、入り口に噴霧口が入っていれば十分です。点鼻薬は正しい使い方をしないと、期待される効果が得られないことがあります。点鼻薬によっても使用方法が異なるため、最初は薬局で使い方をしっかり教えてもらうようにしましょう。

自己判断で、副作用が心配だからと薬の量や回数を減らしたり、症状が良くなったからと途中でやめてしまったりせず、花粉が飛んでいる間は、決められた1日の使用量と使用回数を守って使いましょう。花粉症の三大症状「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」は、子どもの勉強や運動といった活動を低下させ、日常生活に大きな支障を与える可能性があります。早めに治療が始められるとよいですね。

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

監修 上荷 裕広 すずらん調剤薬局
(薬剤師/小児アレルギーエドゥケーター)

< Ⅱ 掘玉 >

さらに詳しい情報は
ホームページで!



⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください。